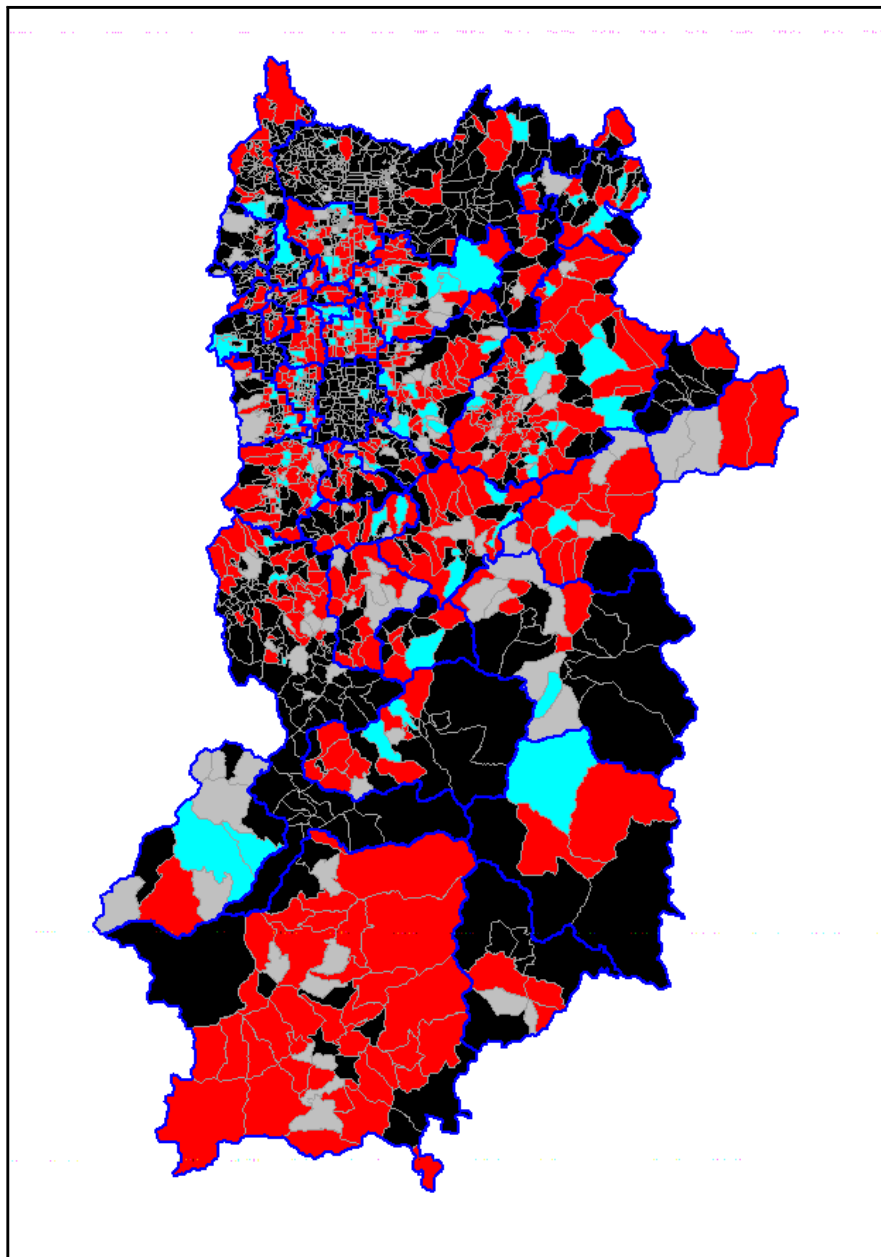


農業・林業集落アンケート調査によるヒヨドリの生息状況・被害状況 (平成26年度)

1. 平成26年度農業集落アンケート調査によるヒヨドリの分布



左図は、平成26年度の農林業集落アンケート調査による、ヒヨドリの分布である。

農業集落でヒヨドリが「いる」と回答があった場合に「いる」と回答があった場合に「分布している」とした。回収無しには既に人が住んでいない集落も含まれている。

ヒヨドリは平地の林から山地の森林まで広く生息し、都市部、農耕地であっても、ある程度樹木(あるいは林など)があれば生息している。本設問の回答もそのようなヒヨドリの生態を反映しており、本年度もほぼ県内全域から「いる」との回答があった。

・平成26年度

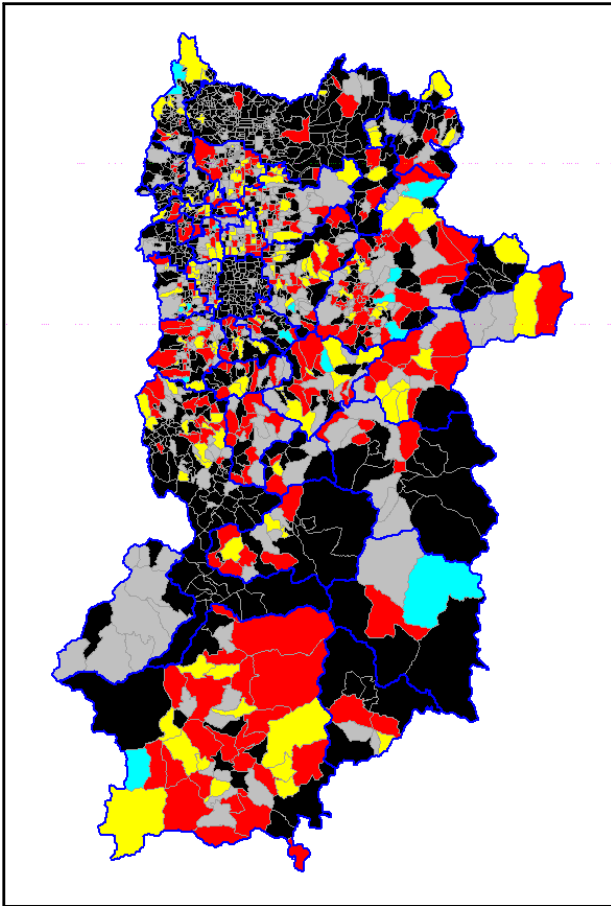
■ いる	485集落
■ いない	133集落
■ 回答無し	118集落
■ 回収無し	1072集落
全	1808集落

参考)平成25年度

■ いる	407集落
■ いない	118集落
■ 回答無し	139集落
■ 回収無し	1144集落
全	1808集落

凡例 図中 青線 市町村界 市町村界内側の線 大字・地区界
なお、この市町村界、大字・地区界の凡例は次項以降の図も同様である

2. ヒヨドリの農地・集落周辺への出没(平成26年度)



左図は平成26年度の農業集落アンケートによる、ヒヨドリの農地・集落周辺への出没状況である。

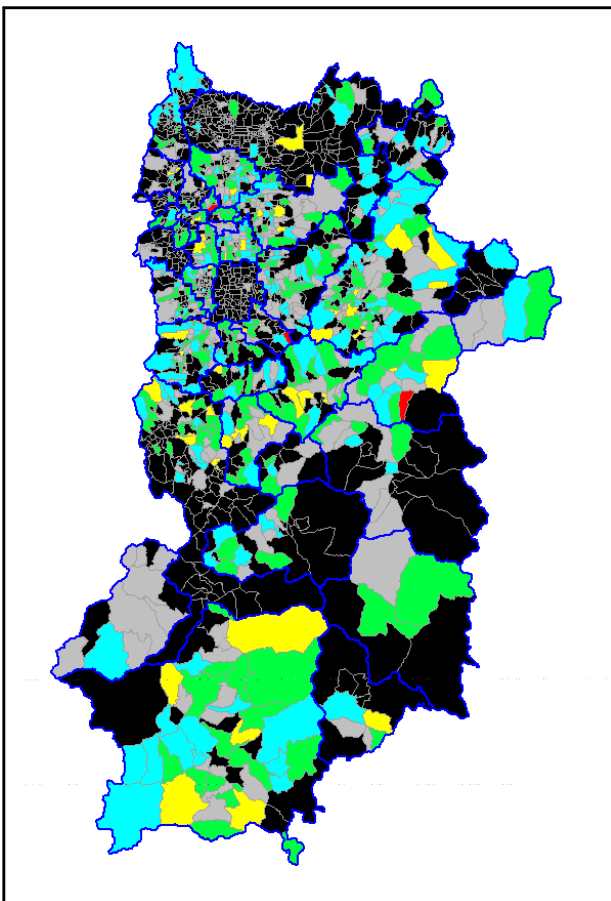
ヒヨドリが「いる」と回答があり、かつ本設問の回答があった集落の内訳は下記の通りである。

「よく見る」との回答が約63%、県内の広い地域から回答があった。

・平成26年度	
よく見る	283集落(63.3%)
たまに見る	146集落(32.7%)
あまり見ない	18集落(4.0%)
回答数	447集落

・参考)平成25年度	
よく見る	163集落(52.6%)
たまに見る	128集落(41.3%)
あまり見ない	19集落(6.1%)
回答数	310集落

3. ヒヨドリの農業被害の大きさ(平成26年度)



左図は平成26年度の農業集落アンケートによる、ヒヨドリの農業被害の大きさの意識調査の結果である。ヒヨドリが「いる」と回答があり、かつ本設問に回答のあった集落の内訳は下記の通りである。

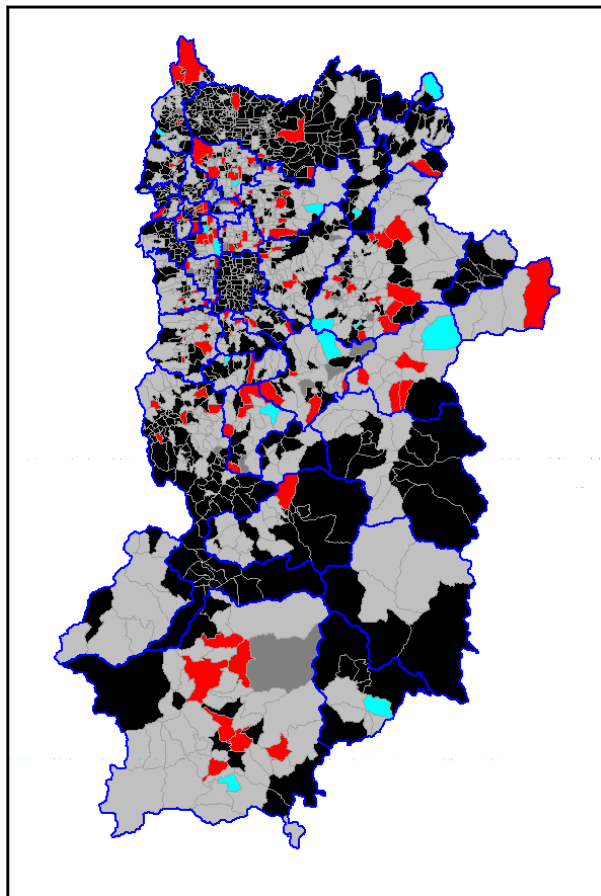
ヒヨドリの農業被害は、「軽微」なものが約半数を占めていた。「大きい」と「深刻」は合わせて約12%であった。

ヒヨドリの農業被害は発生しても「軽微」なものがほとんどであるが、状況によっては被害が大きくなるものと考えられる。

・平成年度	
ほとんど無い	184集落(38.7%)
軽微	237集落(49.8%)
大きい(生産量の30%未満)	52集落(10.9%)
深刻(生産量の30%以上)	3集落(0.6%)
回答数	476集落

・参考)平成25年度	
ほとんど無い	153集落(40.4%)
軽微	191集落(50.4%)
大きい(生産量の30%未満)	31集落(8.2%)
深刻(生産量の30%以上)	4集落(1.1%)
回答数	379集落

4. ヒヨドリの被害対策 防鳥ネットの効果(農地・平成26年度)



左図は平成26年度の農業集落アンケートによる、ヒヨドリの農業被害対策の、防鳥ネットの設置による効果の意識調査の結果である

ヒヨドリが「いる」と回答があり、かつ本設問に回答のあった集落の内訳は下記の通りである。

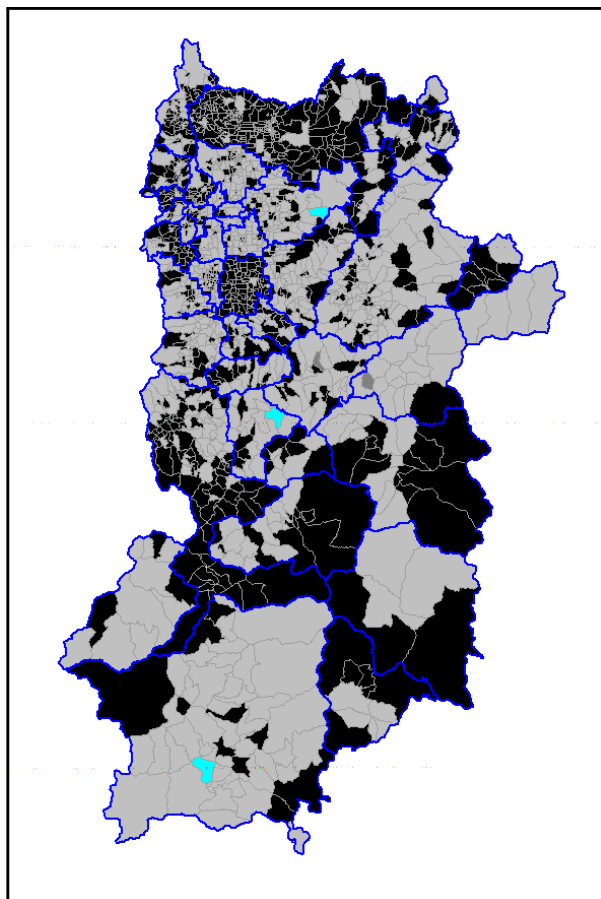
防鳥ネットは農業被害対策として、効果が非常に高いことがわかる。

・平成26年度	
■ 効果があった	111集落
■ 効果がなかった	15集落
回答数	126集落

・参考)平成25年度	
■ 効果があった	86集落
■ 効果がなかった	4集落
回答数	90集落

その他、テグスなどの糸・線を張り巡らすことで防除を実施しているものや、爆竹、ロケット花火、大きな音を鳴らす等の防除をおこなっているものも存在した。その効果のあったり、無かったりは前年度までと同様であった。

5. ヒヨドリの被害対策 有害捕獲の効果(農地・平成26年度)



左図は平成26年度の農業集落アンケートによる、農業被害対策の、有害捕獲を実施した効果の意識調査の結果である。

本設問へ回答は、本年度は3集落のみであった。

・平成年度	
■ 効果があった	0集落
■ 効果がなかった	3集落
回答数	3集落

・参考)平成25年度	
■ 効果があった	1集落
■ 効果がなかった	0集落
回答数	1集落